



## 悪魔はほんとうにいるのか？

### 悪のはびこるこの世の現実

今日、世界を戦慄させる恐るべき事件が多発している。しかも益々エスカレートしている。世界人口はいま 70 億をこえているが、国と国の争い、民族と民族の争い、宗教と宗教の争い、互いに血で血を洗うような争いをつづけてきている。

忘れることができない象徴的なできごとは、2001 年にアメリカに起こったあの 9.11 同時多発テロ。それが正義なのか悪なのかはっきりとした判断もできないまま、人々は、さらに不気味なテロの恐怖にさらされている。他国の暴動の連続は実に悲惨である。

目を国内に転じて見ても同様である。振り込め詐欺事件の多発に加えて、遊ぶお金欲しさに、また性的欲望を満たすために、人の命を鳥や犬猫同然に、いとも簡単に殺めてしまう、こうなった最近の風潮を見るにつけ、人間とはいったい何なのかと、考え込まされてしまう。しかも、自分が世間から無視されていることへの腹いせに、自分と直接何の関わりもない人まで巻き添えにして、何人もの命を殺傷するという事件までも起こっているというこの事実、なにもかもが狂ってしまっているとしかいいようがない。

神学者エクハルト・ミューラー博士はこう言っている：

「今、この世には目をそむけたくなるようなあらゆる不道徳が氾濫している。人々は平気で我が子を殺し、不倫、詐欺、弱者虐待を行なっている。かつては驚きであった犯罪のニュースにも、人々は慢性化し、関心も薄らぎつつあるようにさえ見える。誤った宗教観や神学的信条が至るところで揺れ動く人心を魅惑し始め、身の毛のよだつような恐ろしい退廃的生活へといざなっている」。

メディアは、毎日の暗いことに鬱にならないようにと、一生懸命にエンターテインメントのプログラムで真実から目をそらそうとしている。

今晚は、人類に不幸をもたらしている暗黒の正体について学ぶ。「悪魔、悪天使とか、悪霊はほんとうにいるのか」。

● 安倍総理の靖国神社参拝の問題は国内外で大変な物議をかもしている。靖国神社には戦死者の霊が祀られている。総理、議員、一般人はどんな動機で参拝に行くのか。霊とか神とかいわれる者が、事実そこに存在することを信じて参拝に行くのか。それともただ、国のしきたりだから形式的に行っているのか。

● 厄払いの行事にしてもそうだ。ほんとに悪魔、あるいは死者の靈魂の存在を信じて拝んでいるのか。それとも、ただ先祖伝来のしきたり、慣習だからやっていることなのだろうか。

創造主なる神、あるいは悪魔は人と関わる方法が聖書(黙示録 1:1)によると次のようになっている：

- 神→イエス・キリスト→天使→預言者、あるいは人々に。
- 悪魔→悪天使→偽預言者、あるいは人々に。

### 人間よりも高次元の存在である天使とは何か？

まず、天使について学んでみよう。聖書には、天使という言葉が 285 回も記されている。であるから、これ

に目をつむって聖書の教えを理解することはできない。

- まず、それは神ではない。
- またそれは、人ではない。
- それは、多くの人が想像するように、死人の霊でもない。
- それは、抽象的なものの単なる擬人化でもない。
- それは、譬えや象徴的表現といったものでもない。
- それは、個性・人格をそなえた実在者である。

### 天使の起源

- 天使は、人間と同じく神の被造物である。(詩篇 33:6、コロサイ 1:16)。
- 天使は、人間より先に造られていた。
- 天使は、人間より高次元の存在である。(ヘブル 2:6,7)
- 天使は、被造物ゆえ礼拝の対象ではない。(黙示録 19:10)。

### 天使の性質

#### 1、属性

- A、全知ではないが、大いなる知恵知識を持っている。(マタイ 24:36)。
- B、全能ではないが、大いなる能力を持っている。
- C、超越的存在ではあるが、それは幽霊のようなものとはちがう。
- D、婚姻はしないと、イエスは言っている。(マタイ 22:30)。

#### 2、容姿

- A、純白な姿をしている。(マタイ 28:3)。
- B、翼を持っている。(イザヤ書 6:2、ただし象徴的描写?)。
- C、天使の数は、聖書に「千々万々」とあり、無慮無数のようである。(黙示録 5:11)。

#### 3、使命

- A、天使は神の御使いである。(ヘブル 1:7)。
- B、天使は人間の救いのための奉仕者である。(ヘブル 1:13,14)。
  - ・神よりのメッセージを人に伝達する。(黙示録 1:1、使徒行伝 7:53)。
  - ・神の民を保護する。(詩篇 34:7)。
  - ・人間を監督し、人間の言行を記録し、神に報告する (マタイ 18:10)。

人間をいざない、また悪に仕向けている要因というか、霊的動力のようなものは、いったいどこからくるのであろうか。

#### 1. 悪魔はどこからきたのであろうか？

黙示録 12:9「さて、天では戦いが起った。ミカエルとその御使たちとが、龍と戦ったのである。龍もその使たちも応戦したが、12:8 勝てなかった。そして、もはや天には彼らのおる所がなくなった。12:9 この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された」。

- ① 悪魔は天からこの地球に投げ落とされた。
- ② 龍、蛇、すなわち悪魔、サタン。
- ③ サタンは、全世界を惑わす者として昔から存在する。

なぜか、全世界に龍、蛇礼拝が存在する！ その理由は、聖書にのみ見出せる！



## 2. この世界に最初にサタンが登場したのはいつか？



創世記 3:1 「さて主なる神が造られた野の生き物のうちで、へびが最も狡猾であった。へびは女に言った、「園にあるどの木からも取って食べるなど、ほんとうに神が言われたのですか」。3:2 女はへびに言った、「わたしたちは園の木の実を食べることは許されていますが、3:3 ただ園の中央にある木の实については、これを取って食べるな、これに触れるな、死んではいけないからと、神は言われました」。3:4 へびは女に言った、「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう」。

※ 蛇は神に呪われ地を這うようになるまでは(創世記 3:14)、「飛びかける蛇」であった(イザヤ 14:29、30:6)。世界中に今日も、翼を持つ黄金の蛇の絵が見られる。実在しない龍の物語は聖書からきている！

① **偽り、欺瞞の父** ヨハネ 8:44 「彼は偽り者であり、偽りの父であるからだ」。

神が言われたことは「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい」2:16。サタンは「園にあるどの木からも取って食べるなど、ほんとうに神が言われたのですか」

② **霊魂不滅説** 「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう」

この欺瞞が異教の教えの根底にある。ローマ法王教、多くのキリスト教に取り入れられた。

## 3. 天ではなんと呼ばれていたか？

イザヤ書 14:12 「黎明の子(ルシファー)、明けの明星よ、あなたは天から落ちてしまった。もろもろの国を倒した者よ、あなたは切られて地に倒れてしまった」。エゼキエル書 28:14 「わたしはあなたを油そそがれた守護のケルブと一緒に置いた。あなたは神の聖なる山にいて、火の石の間を歩いた」。

預言者イザヤは 14 章で、バビロンの王を一つの象徴として、また預言者エゼキエルは 28 章で、ツロの王についての預言にちなんで、この悪魔の正体を描き出している。

## 4. 天で創造された当初、サタンはどんな状態であったか？

エゼキエル書 28:15 「あなたは造られた日から、あなたの中に悪が見いだされる日まではその行いが完全であった」



これによると、①彼は神によって造られた被造物であるということ。

②造られたときは完全な存在であったことが分かる。

## 5. ではどうして、彼に「悪が見いだされ」るようになったのか？

エゼキエル書 28:17。「あなたは自分の美しさのために心高ぶり、その輝きのために自分の知恵を汚したゆえ」

いったい、これはどういうことなのだろうか。

イザヤ書 14:13,13,14 「あなたは心のうちに言った、『わたしは天にのぼり、わたしの王座を高く神の星の上におき、北の果なる集会の山に座し、雲のいただきにのぼり、いと高き者のようになろう』」

この彼の企ては、神のみ旨に反することであったため、彼は神から退けられたのであった。

「あなたは天から落ちてしまった…あなたは切られて地に倒れてしまった。14:15 しかしあなたは陰府に落され、穴の奥底に入れられる」。

エゼキエル書 28:16 「それゆえ、わたしはあなたを神の山から汚れたものとして投げ出し、守護のケルブはあなたを火の石の間から追い出した」

※ 彼の高慢、嫉妬、自己称揚は、「礼拝」されるのを望んだ。黙示録 17 章、18 章から全世界を支配する「獣」の権力と、どんなに酷似しているか学んでほしい。

彼は被造物であった。礼拝は、創造主のみに帰すべきものである。天使さえも礼拝されることを拒んだ(黙示録 22:8,9)。終わりの時に全世界の人々は「龍と獣」を礼拝することが強要される(黙示録 13:15)。

創造主は、何と言っているか？「わたしのほか何ものをも神としてはならない」出エジプト 20:3。

## 6. サタンが天から地に落とされたとき、どれくらいの天使が彼の側についたか？

黙示録 12:4 「その尾は天の星の三分の一を掃き寄せ、それらを地に投げ落とした。龍は子を産もうとしていた女の前に立ち、生れたなら、その子を食い尽くそうとかまえていた」。

## 7. サタンは今どこにいるのだろうか？

ヨブ記 2:2 主はサタンに言われた、「あなたはどこから来たか」。サタンは主に答えて言った、「地を行きめぐり、あちらこちら歩いてきました」。黙示録 12:12 「それゆえに、天とその中に住む者たちよ、大いに喜べ。しかし、地と海よ、おまえたちはわざわいである。悪魔が、自分の時が短いを知り、激しい怒りをもって、おまえたちのところに下ってきたからである」。ペテロ第一 5:8 「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている」。

### 悪魔の存在:

世界的大神学者エミール・ブルンナー博士はこう言っている：

「私は悪魔の存在を信じることに長い間反対してきた。私は、悪魔は人間の心の中、すなわち神の命令を否定する人間の意思の中に、その根源を持つているという説明を以て足りると考えていたが、次第に悪魔の思想は、聖書の時代遅れの観念に属するものではなく、むしろ反対に聖書の救いの教えの前提をなすものであるとの見解に到達したのである。

単に悪の力というようなものが存在するのみではない。それはだれでも知っている。そうではなくて、神のみわざが力をもって推し進められようとするとき、これに対して特別の熱情と力をもって阻もうとして反抗的努力を傾けようとするところの勢力、神の支配に対して計画的反対行動をとるところの人格的勢力がある。

このような悪魔の術策、悪魔の襲撃は実際にある。聖書がそのことを我々に教え、また我々の経験もそれを教えるのである」及川吉四郎「悪魔はほんとうにいるのか」に引用。

元東京大学の総長をされた矢内原忠雄氏の証言：

「どうして自分がこんなはげしい誘惑を感じずのか、もしくはこんなに…不安と動揺を覚えるのか、思えば慨嘆にたえないこともあり、断腸の痛恨事もある。かかる事実をみれば、我らはサタンの実在という問題を考えざるを得ないのである。

天に在りし時のサタン…はミカエル、ガブリエルに匹敵する天使長の一人であった。…サタンの部下は悪鬼である。彼らの前身も天使であったが、サタンが天より追われた時、彼と共に地に落されたものと推測される。…

地に落されたサタンは、己が時の暫<sup>しば</sup>しなるを知り、ますます秘策を構<sup>く</sup>じて、人を神より離反せしめようと企<sup>たくら</sup>む。

戦時中にはサタンの戦時的扮装があったように、また彼の戦後的な偽装がある。たといそれが軍国的ブラス・バンドであろうとも、あるいは文化的ジャズ・ソングであろうとも、人間を神より引き離すものはすべてサタンのわざである。

我らは我らの目を単純にして、サタンの術を看破しなければならない。我らは常に目をさまして、祈っていなければならないのである。

これをお読みになってもなおあなたは、悪魔の実在を認めまた信じる人を、無知・幼稚・迷信として蔑視したり嘲笑したりできるであろうか。もしそうであれば、じつはその人こそ、知性的に狭く、浅く、幼稚な人、といわれなければならないであろう。

なぜなら、そのような人は悪魔の惑わしや誘惑また攻撃に、まったく無防備の人ということになるからである」。及川吉四郎「悪魔はほんとうにいるのか」に引用。

## 8. イエス・キリストが悪霊を追い出されたとき悪霊は何と言ったか？

マルコ 5:8 「それは、イエスが、『けがれた霊よ、この人から出て行け』と言われたからである。 5:9 また彼に『なんという名前か』と尋ねられると、『レギオンと言います。大ぜいなのですから』と答えた。 5:10 そして、自分たちをこの土地から追い出さないようにと、しきりに願いつづけた。 5:11 さて、そこの山の中腹に、豚の大群が飼ってあった」。

- ① 一人の人にさえ、多くの悪霊が憑りつく
- ② 豚に。沖縄の習慣 夜遅く帰宅する時には豚を起し、ヤナムン(悪霊)を豚に入れる。

## 9. 悪霊は、動物、人間を媒体として働くことがあるか？

- ① 聖書に、悪霊が人間にも動物にも憑りつくことがよく出てくる。憑霊現象。

## 10. 終わりの時に特に悪魔が働く

黙示録 12:12 「それゆえに、天とその中に住む者たちよ、大いに喜べ。しかし、地と海よ、おまえたちはわざわざである。悪魔が、自分の時間が短いを知り、激しい怒りをもって、おまえたちのところに下ってきたからである」。

## 11. イエスは終わりの時のサタンの欺瞞についてなんと言われたか？

マタイ 24:4 そこでイエスは答えて言われた、「人に惑わされないように気をつけなさい」。

マタイ 24:11 また多くのにせ預言者が起って、多くの人を惑わすであろう。

マタイ 24:24 にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。

### ● 非人格的霊力（人間の内に宿っている霊能力）

#### 1、念力 例：ユリ・グラールのスプーン曲げ

「私が持っているこの能力は、だれにでもあるものなので、どなたもぜひ試みてみてほしい」といいながら、「そうした力は私から遠くはなれた外界からやってくるもので、自分はそれらを送りだす管のようなものだ、と私は感じている」といい、また「私は自分がやることは、私から遠くはなれた外部にあるエネルギーの力のなせるわざであると信じているので、いつ失敗するか自分でもまったくわからない」ともいっている。

2、念写—念をこめてカメラのシャッターを切ると、被写体以外の映像がフィルムに写る現象。

3、透視—霊能者が透かし見て当てること。

4、遠隔感知現象—遠く離れているところで起こっていることを、霊眼でみること。

5、未来感知現象—いつか未来に起こることを予知し、前もって告げること。例：ジーン・ディクソン

6、逆行認知現象—過ぎ去った過去のできごとを霊視して告げること。

### ● 人格的な霊の実在（外からの働きかけによる霊能力）

1、自働書記—ある霊的存在者が外から働きかけて、本人の意思と関係なく、手や指がひとりで動いて、文章をつづる。

2、浮揚、遊体—空中に浮かぶこと。

3、心霊治療—除霊、因縁解除、霊界医師による方法。

## 12. サタンが働くいろいろな巧妙な手段

1 コリント 11:14 「しかし、驚くには及ばない。サタンも光の天使に偽装するのだから」

## ● 死者の霊を装って現れるサタン—心靈術

- ① 靈魂商法 「災厄を解消するためには先祖に対する供養が必要だ」
- ② 手相や占い
- ③ 口寄せ、イタコ、ユタ、ノロ

## ● 神を装って現れる霊

- ① 「靖国神社に参拝することは、国民の命を奪い、国を滅ぼした戦争犯罪者に頭を下げるだけのことではないのです。もし霊とか神とかいわれる者が、事実そこに存在するとしたら、それはじつは、死者の霊でもなければ神でもない。それが何者であるかを明確に解き示してくれるのは、神の啓示だけなのです。神ではなく、死者崇拜の名目のもとなされるサタン礼拝なのです」 及川吉四朗。
- ② 2テサロニケ 2:3 だれがどんな事をして、それにだまされてはならない。まず背教のことが起り、不法の者、すなわち、滅びの子が現れるにちがいない。2:4 彼は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して立ち上がり、自ら神の宮に座して、自分は神だと宣言する。ローマ法王

## ● すべての人に悪霊は働く

◆弟子ユダの例 ◆弟子ペテロは、主に「サタンよ引き下がれ」叱責された。◆サウロの例

## 13. 終末時代の世界的大欺瞞は何か？

黙示録 12:12 「しかし、地と海よ、おまえたちはわざわいである。悪魔が、自分の時が短いのを知り、激しい怒りをもって、おまえたちのところに下ってきたからである」。

ヨハネ 12:31;14:30 ; 16:31 サタンは「この世の君」と呼ばれている。

黙示録 12 章では、「龍、悪魔、サタン」と呼ばれている。

## 14. 全世界を惑わし、礼拝と服従を要求するのは誰か？

先回の講演会で学んだことを思い出そう。全世界の人々に礼拝と服従を強要するのは、「海から上って来る獣」である。それは、世界政府＝新世界秩序を陰謀するローマ法王教であることを学んだ。それは真のキリスト教ではない。なぜなら、こう書かれているからである：

黙示録 13:2 「わたしの見たこの獣はひょうに似ており、その足はくまの足のようで、その口はししの口のようであった。龍は自分の力と位と大いなる権威とを、この獣に与えた」。黙示録 13:3 ...そこで、全地の人々は驚きおそれて、その獣に従い」黙示録 13:4 「また、龍がその権威を獣に与えたので、人々は龍を拝み、さらに、その獣を拝んで言った、「だれが、この獣に匹敵し得ようか。だれが、これと戦うことができようか」。

## 15. 我々は誰のみを拝むべきか？

出エジプト記 20:3 「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」。

## 16. サタンはいつ滅ぼされるか？

千年期が終わると(黙示録 20:7)、黙示録 20:10 「彼らを惑わした悪魔は、火と硫黄との池に投げ込まれた。そこには、獣にもせ預言者もいて、彼らは世々限りなく日夜、苦しめられるのである」。

※ ソドムーゴモラの滅亡も、エルサレム滅亡も同じ表現が使われている。これは、永遠の責苦を言っているのではなく、そのものが完全に焼き尽くされる表現である。

2 コリ 6:2 神はこう言われる、「今は恵みの時、見よ、今は救の日である」。

ヨハネ 3:16 神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。